

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 カチオンクロライド
会社名 町田商事株式会社
住所 東京都練馬区東大泉7-25-1
電話番号 03-5905-5670
FAX 番号 03-5905-5674

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	眼に対する重篤な損傷/目刺激性	区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分1

※上記で記載の無い危険有害性は区分に該当しない又は分類できない

GHSラベル要素・

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害 重篤な眼の損傷 水生生物に非常に強い毒性（原液&高濃度の場合）

注意書き

安全対策	炊事用手袋・保護眼鏡着用
応急措置	飲み込んだ場合は口を濯ぐ。気分が悪い場合は医師の診察を受ける 4項参照 眼に入った場合は流水で数分間よく洗う。次にコンタクトレンズ着用で容易に外せる場合は外して洗浄し続ける。皮膚に付着した場合は水で洗う
保管	他の洗剤と混触不可
廃棄	内容物／容器を適切な焼却炉で焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。少量の場合は多量の水で希釈する。河川法、水質汚濁防止法及び地方条例に従う事

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
成分・含有量	カチオン系液体混合物
	ビルダーとして 炭酸塩 洗剤 消泡剤

4. 応急処置

吸入した場合	・症状が出た場合は直ちに被災者を新鮮な空気の有る場所に移し症状により医師の診察を受ける
皮膚に付着した場合	・特に記す事は無いがヌメリが残るので食酢、石鹼、流水で洗う
目に入った場合	・直ちに流水で洗眼する(5分以上)。次にコンタクトレンズ着用で容易に外せる場合は外して洗浄を続け症状により医師の診察を受ける
飲み込んだ場合	・水で口の中を洗浄し(うがい)コップ1～2杯の水を飲み吐き出す 2～3回して牛乳若しくは生卵を飲んで医師の診察を受ける

5. 火災時の処置

適切な消火剤	・周辺火災に適した消火剤を使用する
使ってはならない消火剤	・特になし
特有の危険有害性	・特になし
特有の消火方法	・不燃性物質 危険でなければ容器を火災区域から移動する
消火時の保護具	・空気呼吸器を含め適切な保護具を着用する

6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	・8項参照
環境に対する注意事項	・12項参照
封じ込め及び洗浄の方法及び機材	・モップ若しくはウエスで良く拭き取り濯ぎ流す ・ヌメル場合は食酢を散布して転倒防止処置をする

7. 取り扱い及び保管上注意

取扱い	
技術的対策	・適切な保護具を着用する・冬期は粘度が高まる 適切な排気換気装置を使用する
安全取扱い注意事項	・容器を転倒若しくは落下する等の衝撃を与えない。スプレー使用の場合は保護眼鏡、マスク着用。取説を参照してから使用
接触回避	・陽イオン構成の為陰イオンとは混触すると目的の効果が無くなる
保管	
安全な保管条件	・密栓した容器で直射日光を避け換気の良い暗所で保管する ・飲食容器と隔離する 幼児等の手の届かない所に置く
混触危険物質	・他の洗剤と混触しない・陽イオン構成の為、陰イオン物質と混触すると目的の効果が無くなる
安全な容器包装材料	・塩ビ、ポリエチレン等の石油製品を使用する

8. 暴露防止及び保護処置

管理濃度	・設定されていない
許容濃度	・設定されていない
設備対策	・特に記す事は無い

保護具

- | | |
|------------|----------------------------|
| 呼吸用保護具 | ・スプレー使用の場合は保護マスク使用 |
| 手の保護具 | ・ゴム手袋 |
| 目の保護具 | ・ゴーグル眼鏡使用・スプレー使用の場合は保護眼鏡使用 |
| 皮膚及び身体の保護具 | ・状況に応じて着用 |
| 衛生対策 | ・特になし |

9. 物理的及び化学的性質

- | | |
|----------------|----------------------|
| 外観 | ・透明粘性液体 |
| 臭い | ・無臭 |
| 比重 | ・0.989 (20℃) |
| pH | ・7.8(原液) |
| 沸点 | ・102.0℃を超える |
| 融点 | ・-4.5℃ |
| 蒸気圧・密度 | ・データ無し |
| 相対ガス密度 | ・データ無し |
| 可燃性 | ・データ無し |
| 爆発下限界及び爆発上限界 | ・不燃性物質 |
| 引火点 | ・不燃性物質 |
| 自然発火点 | ・不燃性物質 |
| 分解温度 | ・データ無し |
| n-オクタノール/水分配係数 | ・データ無し |
| 溶解度 | ・水に溶解 イソプロピルアルコールに溶解 |
| 揮発性 | ・データ無し |
| 粘度 | ・137.0mpa・s |
| 動粘性率 | ・データ無し |
| 粒子特性 | ・データ無し |

10. 安定性及び反応性

- | | |
|------------|------------------|
| 反応性 化学的安定性 | ・当品自体は安定で有る |
| 危険有害反応可能性 | ・データ無し |
| 避けるべき条件 | ・他の化学薬品、洗剤との混触不可 |
| 混触危険物質 | ・特に記す事は無い |
| 危険有害な分解生成物 | ・データ無し |

11. 有害性情報

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 急性毒性 経口 | ・区分4・マウスLD50 500mg/kg |
| 急性毒性 経皮 | ・データ無し |
| 急性毒性 吸入 | ・粉塵・ミスト・蒸気・データ無し |
| 皮膚腐食性/刺激性 | ・ヒト0.2%水溶液 48時間添付試験反応は認められない |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | ・区分1 Draize法 1%水溶液 I.A.O.I=23.0 |
| 呼吸器感作性 | ・データ無し |
| 皮膚感作性 | ・区分に該当しない |
| 生殖細胞変異原性 | ・区分に該当しない |
| 発がん性 | ・IARC・NTP・産衛学会に記載されていない |
| 生殖毒性 | ・データ無し |

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	・データ無し
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	・データ無し
誤えん有害性	・データ無し

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)及び長期(慢性)

- ・死滅したバクテリア&植物性プランクトン(アホ)が魚のエラに蓄積し死滅する恐れ有り

残留性・分解性

- ・データ無し

生体蓄積性

- ・データ無し

土壌中の移動性

- ・データ無し

オゾン層への有害性

- ・データ無し

一般的な注意事項

- ・特に記す事は無いが使用前に取説を参照する

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・少量の場合は多量の水で希釈して廃棄する
- ・河川法、水質汚濁防止法及び地方条例に従う事
- ・内容物/容器を適切な焼却炉で焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する

汚染容器及び包装

- ・空容器を廃棄する場合は良く濯ぎ洗う事

1 4. 輸送上の注意

航空規制情報

- ・非該当

特別な安全対策

- ・飲食容器とは隔離する・容器の破損、液漏れの安全確認をする
- ・荷崩れ防止を確実にを行う

1 5. 適用法令

労働安全衛生法

- ・非該当 対象物に該当しない

消防法

- ・非該当

水質汚濁防止法

- ・河川法及び地方条例に従う事
- 当液は中性で有るが PH5.8 以上 8.6 以下にして廃棄(水質汚濁防止法)

船舶安全法

- ・非該当

航空法

- ・非該当

毒劇法(薬事法)

- ・非該当

P R T R 法

- ・非該当

1 6. その他の情報

引用文献

- ・事故災害例無し
- ・当 SDS は JIS Z7253:2019 に準じて作成しています
- ・化学薬品混触危険ブック東京消防庁編
- ・厚生労働省生活衛生局化学品安全課
- ・(社)日本化学工業会
- ・化学工業日報